

築地の魅力ある
歴史的町並みを
考え始める。

2017年11月4日(土)

参加
無料

講演会 & パネルディスカッション：10:00～11:45

ゲスト：学校法人工学院大学 理事長 後藤治
株式会社マヌ都市建築研究所 取締役 三浦卓也
学校法人工学院大学建築学部 助教 小林直弘
株式会社ヤマムラ 中村出

会場：築地本願寺講堂

関連イベント：まち歩き「魅惑都市築地探訪」14:00～15:30

事前申込み先：築地の魅力ある歴史的町並みを考える会 事務局

E-mail info.tukiji.machinami.kai@gmail.com

※当日の参加受付も行いますが事前申込みいただければ幸いです。
※まち歩き参加希望の方は当日、受付にて申込みください。

2017年 築地「文化遺産ウォッチ・デー」について

<はじめに>

大正12年(1923年)の関東大震災で市街地が焼失した後、築地は帝都復興計画により移転した中央卸売市場として発展し、第二次世界大戦の東京大空襲でも奇跡的に戦禍を逃れ、多くの歴史的建造物群が戦後まで継承されてきました。しかし、戦後は高度経済成長やバブル経済のもと、都心である築地は常に開発圧力に曝され、この時期にも多数の歴史的建造物が壊されました。こうした中、築地場外や路地沿道等にはまだ多くの歴史的建造物が受け継がれ、今日でも築地本願寺を中心として約30件の歴史的建造物群が残ってはいますが、その歴史的景観を保存・活用・継承していくためには、地域社会を主体とした更なる活動が必要です。また、その歴史的景観の大切さは世界的にも認められています。2015年の秋、築地1~4丁目、6、7丁目に所在し、主に昭和初期~昭和20年代までに建てられた約30件の木造の歴史的建築群が、国や文化の枠を超え、歴史的建造物などの文化遺産の保護・保存活動を行っているワールド・モノメント財団(World Monuments Fund: WMF / 本部米国)により、「東京の歴史的景観 - 中央区築地の近代建築群」として2016年版「ワールド・モノメント・ウォッチ (World Monuments Watch / 「文化遺産ウォッチ」)」のひとつに選ばれ「緊急に保存・修復などの措置が求められている文化遺産」として、広く世界に向けて、その現状と保存支援の必要性が訴えられています。そして今回の地域社会イベント2017年築地「文化遺産ウォッチ・デー」は、「文化遺産ウォッチ」の付帯プログラムとして、それら築地の貴重な文化遺産の持続的保存・継承にかかせない地域社会の関わりを強め、その主体的な活動を促進するために企画、実施されるものです。



<プログラム> 平成29年11月4日 築地本願寺講堂にて

講演会 & パネルディスカッション 10:00 ~ 11:45

ゲスト：工学院大学理事長 後藤治 「伝統を今のかたちに」

：千葉大学非常勤講師 三浦卓也 「築地のまちの成り立ち」

：株式会社ヤマムラ 中村出「歴史的な街並み・建造物の保存再生物語」

パネルディスカッションモデレーター：工学院大学助教 小林直弘

関連イベント：まち歩き「魅惑都市築地探訪」ガイド・ツアー 14:00 ~ 15:30

アクセス



浄土真宗本願寺派 築地本願寺
所在地：〒104-8435 東京都中央区築地3-15-1
東京メトロ 日比谷線「築地」駅 出口1より徒歩約1分
東京メトロ 有楽町線「新富町」駅 出口4より徒歩約5分
都営地下鉄 浅草線「東銀座」駅 出口5より徒歩約5分
都営地下鉄 大江戸線「築地市場」駅 出口A1より徒歩約5分

後藤治



工学院大学理事長。
元文化庁文化財保護部建造物課文化財調査官であり、当時の経験を活かして歴史的建築物(町並)の保存・活用に力を注ぐ。

株式会社マヌ都市建築研究所取締役・千葉大学非常勤講師。全国各地の歴史文化資源を活かしたまちづくりに精通。



三浦卓也



小林直弘

工学院大学助教。全国各地の歴史的建造物の潜在的な価値を探り、保存と有意義な活用に力を注ぐ。

株式会社ヤマムラ勤務。歴史的建造物の保存修理と活用等について入谷・根岸などで精力的に活動。まちあかり舎設立。



中村出

主催：築地の魅力ある歴史的町並みを考える会 協力：築地本願寺(会場提供) 支援：工学院大学建築学部後藤治研究室・マヌ都市建築研究所
協賛：ワールド・モノメント財団、アメリカン・エクスプレス財団

sponsor

